

東京大学 ラリー・モンテカルロ・ヒストリック 2012 参戦プロジェクト __KARO 協賛

2012年1月に開催された「ラリー・モンテカルロ・ヒストリック」に、東京大学の「参戦プロジェクト Team "Daruma" Japan」が出走。これに、当社株式会社カロが協賛いたしました。



協賛に至る経緯は、「ご縁」と、KARO 創業者である高橋晴邦のある「想い」がありました。

昨年夏に、友人の木野さんから、東大生の息子が大学の授業の一環として 1973 年製のセリカとトレノをレストアし、モンテカルロラリー・ヒストリック部門に出場するので応援して欲しい、との依頼を受けました。1973 年製のセリカは、日本の名レース 100 選にも選ばれ、僕と見崎選手が操って優勝した「[73年富士 1000 キロレース](#)」と同型車でもあるので、公私共に応援することにしました。その後、車輛の発掘からラリーを走れるまでに仕上げる過程を見聞き、「流石、東大生達だなあ」と感じるとともに、東大工学部の学生達が教授をリーダーにして自動車競技に参加する、と言う事実は僕らが現役の時代では想像も出来ないことでした。今回のプロジェクトに関わった学生達は、将来自動車メーカーの設計部門やモータースポーツ部門、或いは F-1 の設計者になるかも知れません。彼らの夢ある人生のスタート時点を共有できたことが大きな喜びであります。高橋 晴邦

以下、Team "Daruma" Japan 副リーダー 木野竜之介さんがお送りくださいました参戦レポートとスナップです。

大変お世話になっております、東京大学の木野です。
モンテカルロ・ラリー本番が終了いたしまして、6日に帰国いたしました。
ご報告遅れまして大変申し訳ございません。

15日に日本を発ちました私たちは南イタリアで車両を受け取り北上、チームがベースを構えるニースへと向かいました。
中発隊と合流してイギリスでの F1 工場や博物館の見学を行った後、ニースのトヨタディーラーにて5日間の車両準備期間となりました。
たっぴりと時間を用意したつもりでしたが、想定外の問題続きで作業が難航し、結局直前の29日まで最終調整が続きました。

またこの日、それまで穏やかだったヨーロッパの気候も急変し競技地域は激しい雪に。
スタート地であるトリノまでの高速道路移動ですら四苦八苦するような状況でした。
そして翌30日、車検やステッカーの貼付けを済ませ、19時頃いよいよスタートとなりました。

<出走準備中のセリカ>



4班にわかれたサポート隊も順調にサポートをこなし、
モナコまでのコンセントレーションランのゴールが見えてきた頃、
セリカがクラッシュしたとの連絡が入りました。
サポート隊が駆けつけると、そこには右フロントが大きく変形したセリカの姿が・・・。



非常に大きなダメージを受けており、まともに走るのは困難な状況。
それでもその場で応急処置を施し、モナコのゴールになんとか滑りこむことが出来ました。

この頃トレノも前走車に追突するアクシデントがありましたが、
幸いこちらは走行に問題ない程度の損傷で済みました。
セリカは翌日のクラシフィケーションランのチェックポイントをほとんどパスし、ニースで応急修理を
行いました。

右方向にステアリングが切れずヘアピンでも切り返すような状況でしたが、
なんとか走行を続けることが出来る程度に修復することが出来ました。

とても苦しい状況ではあったもののその後も2台は走行を続け、
最終日のチュリに峠を経て、3日深夜、モナコにゴールすることが出来ました。

<チュリに峠にて>



<ゴール時>



成績は以下のとおりでした。

参加台数	291 台
完走	214 台
セリカ	総合 213 位、年代 (1972~79 年製)・排気量 (1301~2000 cc) 別 78 位 (参加 94 台、完走 78 台)
トレノ	総合 119 位、年代 (1972~79 年製)・排気量 (1301~2000 cc) 別 46 位 (参加 94 台、完走 78 台)

3割近くがリタイアというレースで、2台揃って完走でき大変ほっといたしました。
とても厳しい環境の中、最後まで諦めることのなかったチーム全員の努力の結晶だと思います。
慣れぬ異国の地でのトラブル続きのラリー、本当に大変な5日間でした。
しかしゴールを迎えた時の感動と安堵は忘れられることのできないものでした。
そして今、多くのチームメンバーが再びこのラリーを訪れることを望んでいます。

1年間の活動、そしてラリー本番を通し、このプロジェクトから大変多くのことを学びました。
大きなチームをマネジメントすることの難しさ、古い車を直しラリーに出るための工夫、
沢山の方々と接することの大切さ、海外の方とのコミュニケーション、そして、最後まであきらめない
こと。
全て今後の人生の中で大切な財産となるものだと感じております。
こうして貴重な経験ができたことも、全てご支援いただいた多くの皆様のおかげです。
改めまして心より感謝申し上げます。

KARO様のマットによって普通のラリーカーとはひと味違う華やかな内装は現地でも注目を集めていま
した。
また極寒の中での長距離ラリー、ドライバーたちも快適なマットに大変助けられたことと思います。

高橋晴邦様はじめ、カロの皆様には大変お世話になりました。
来年度はまた新しいメンバーが目標に向かっていくこととなるはずです。
引き続きのご支援、ご協力をご検討いただければと思っております。
どうぞよろしく願いいたします。

<ラリー後のパーティーにて>



=====
東京大学
ラリー・モンテカルロ・ヒストリック 2012 参戦プロジェクト
Team "Daruma" Japan
Web <http://monterally.jp>
=====

[KARO ホームページ](#)